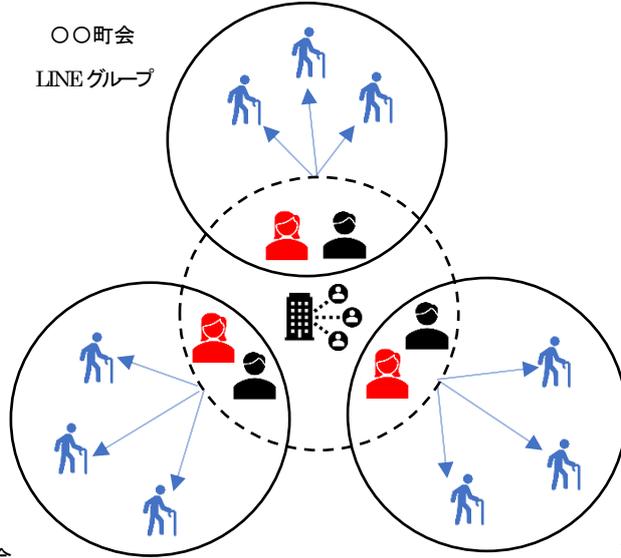


「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

<p>団 体 名</p>	<p>スマホ教室 in おたるの町内会実行委員会</p>
<p>事 業 名</p>	<p>ZOOM や LINE で繋がる町内会に！ スマホ教室 in 小樽の町内会実行委員会</p>
<p>実 施 期 間</p>	<p>令和3年10月～11月</p>
<p>事業の目的及び期待する効果</p>	<p>令和2年度に小樽市福祉部地域福祉課主催において実施された「しあわせな地域づくりワークショップ」に参加した市民の意見から、若者を町会活動に取り込めずに衰退する高齢者が主体となっている町内会と町会活動に参加したくても情報を取得できずに困っている若者との間に存在するデジタルデバイド (digital divide) を解消することが、地域コミュニティの活性化には必須と判断し、若者と高齢者がスマホ教室による交流を通じて、気軽に連絡を取り合える関係を構築するとともに、高齢者にスマホを通じて対話できるスキルを身に付けさせることで、高齢者から若者への情報発信が容易になり、若者の町会活動やまちづくり活動への参加を促進することを目的とする。</p> <p>若者と高齢者が LINE を通じて会話ができるようになると、容易に、町会から若者に町内会活動の情報を提供して参加者を募ったり、地域の困りごとを解決できる人材を募集できるようになる。つまり、共通の情報プラットフォームを LINE にすることで、若者が地域の課題を解決できる機会が増やすことができる。特に、「たるたる支え愛プラン」の施策3「地域におけるボランティア活動の推進」、施策4「町内会活動への参加促進」、施策5「多様な世代のつながりづくり」の具体的な成果に繋がる可能性が高い。</p> <p>各町会単位で大学生を中心とした若者と高齢者とは LINE グループを形成（下図実線円）し、これらの LINE グループを代表する町会役員と大学生スタッフが ZOOM によるオンラインミーティング（下図破線円）を開催することで、市役所や町会からの情報や大学生からの提案が、容易にスマホ教室に参加したすべての市民に伝達する（下図矢印）ことを可能する仕組みを情報共有ネットワークという。</p> <p>LINE グループでは、大学生・町会役員・スマホ教室参加者が情報を共有でき、ZOOM では、大学生・町会役員が情報を共有できる。ZOOM で話し合われた情報は LINE グループを通じて、スマホ教室参加者に提供される。</p>

〇〇町会
LINEグループ



××町会
LINEグループ

△△町会
LINEグループ

 大学生スタッフ

 町会役員

 スマホ教室参加者

 市役所 (市民に情報を発信したい部署)

実施額

事業費

45,912 円

助成額

45,912 円

事業内容

(1) スマホ教室の開催

町会住民と大学生とが LINE グループで繋がり、継続した交流を可能にすることが目的。

① LINE グループを作成して投稿の方法を指導し、参加者に対してスマホ教室の次回開催のお知らせや他の住民の勧誘を依頼するほか、日常の写真投稿、新年のご挨拶など、気軽に交流できるよう運用を行う。

② ZOOM (スマホアプリ版) の使い方を指導し、コロナ禍においても顔を見ながら交流できる体制を構築する。

● 選考会からの意見「単なるスマホ教室にならないよう、若者と地域の高齢者との世代間交流が深められる展開や、町内会活性化への展開を図られるような事業内容の工夫と改善を検討されたい」に基づき以下の活動に発展させる。施策3～5は小樽市地域福祉計画のテーマ。

(2) 世代間交流の実施／施策5「多様な世代のつながりづくり」

サンモール一番街において、大学生と市民が交流及び飲食が行えるイベント(タルパ)を実施し、スマホ教室の参加者と大学生の交流を行う。

(3) 町内会活性化への展開／施策4「町内会活動への参加促進」

スマホ教室を開催した町会に国際スポーツ雪かき選手権実行委員会への参加を要請。町会内での雪かき作業をスムーズに行えるよう、大学生とともに、地域の雪対策の現状を視察、住民に対する大会の周知活動に同行していただくが、新型コロナウイルスの感染リスクを考慮しながら、可能な範囲でご協力いただくこととする。

(4) スマホを活用したボランティア支援体制の構築／施策3「地域におけるボランティア活動の推進」

今年度スマホ教室に参加した石山町会の住民と雪かきの担い手として活動できる中学生や大学生などの若者がスマホの位置情報アプリ「ココイル」を通じて、住民からの雪かきの要請に応じて、若者が雪かきを実行するまでをワンストップで完結できること、さらに、雪かきの実行履歴をアプリに残すことで雪かきをした若者の実績評価に活用できることを検証する。

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

◎事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (住民/学生 参加人数)
R3. 5. 3	事業(1)①:スマホ教室 in 入船六三町会(助成対象外)	10名程度	7名/4名
R3. 5. 5	事業(1)①:スマホ教室 in 石山町会(助成対象外)	〃	5名/4名
R3. 7. 10	事業(1)①:スマホ教室 in 石山町会(助成対象外)	〃	5名/5名
R3. 7. 22	事業(1)①:スマホ教室 in 入船六三町会(助成対象外)	〃	12名/6名
R3.10. 9~10	事業(2):世代間交流事業「タルパ」(助成対象外)		
R3. 10. 24	事業(1)②:スマホ教室 in 桂岡町会	〃	4名/5名
R3. 11. 14	事業(1)②:スマホ教室 in 入船六三町会	〃	8名/9名
R3. 11. 21	事業(1)①:スマホ教室 in 石山町会	〃	9名/10名
R3. 12. 11	事業(3):国際スポーツ雪かき選手権への協力要請・入船六三町会(助成対象外)		
R3. 12. 19	事業(3):国際スポーツ雪かき選手権への協力要請・石山町会(助成対象外)		
R4. 1. 9	事業(3):住民への周知のための戸別訪問・入船六三町会(助成対象外)		
R4. 1. 16	事業(3):住民への周知のための戸別訪問・石山町会(助成対象外)		
R4. 2. 11	事業(3):国際スポーツ雪かき選手権 石山町会(助成対象外)		
R4. 2. 19	事業(3):国際スポーツ雪かき選手権 入船六三町会(助成対象外)		
R4. 2. 20~2. 27	事業(4):スマホを活用したボランティア支援体制の構築(本事業として実施予定) ※ まんえん防止等重点措置に指定された期間を除く、もしくは、感染状況によっては実施を見送った		

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

本事業の目的と達成度は以下の通り。

(1)各町会単位で大学生と町会の住民が LINE グループを通じて交流できるようにする

➤ 石山町会、入船六三町会、桂岡町会ともに LINE グループを構築し、各々16名(町会7名)、22名(12名)、9名(町会3名)がメンバーとして登録できた。若者は、主に交流活動に関するお知らせに活用し、高齢者は、写真の投稿が目立つ。しかしながら、LINE グループに登録しても、一度の説明では覚えられず、繰り返し、使用方法を説明する必要がある高齢者も存在する。

(2)町会役員と大学生による ZOOM を活用したオンラインミーティングを実施する

➤入船六三町会、桂岡町会では、町会役員に ZOOM スマホ版アプリの使い方を説明したが、オンラインミーティングを実施できるまでには至っていない。事業開始が遅れたことと、新型コロナウイルス感染対策期間が長かったため、十分な時間を確保することができなかったのが達成できなかった原因である。

(3)市役所・町会・大学生の3者による情報共有から町会の住民に情報伝達可能なスキームを構築する

➤市役所・町会・大学生の3者から、各町会役員を経由して、LINE グループに登録済の住民に広く情報を周知させることができるスキームの構築を目指そうとしている。今年度は、活動期間が分散され、各々の期間も短かったため、本スキームの構築には至らなかった。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

高齢者一人に対して大学生が1~2名、悪くても高齢者二人に対して大学生が1名指導に当たるので、高齢者はスマホの使い方のわからないことを質問し理解するだけではなく、メルカリへの出展方法など、スマホを積極的に活用しようとする意識の高い方もいた。子が親にスマホを教えることを面倒くさがって、なかなか課題を解決できずに困っている高齢者にとっては、孫と同年代の大学生は親切で頼もしい存在になっているように実感している。各町会の会長からは、多くの大学生が頻繁に会館を訪れることに感謝のお言葉をいただくばかりではなく、今後、他の活動に対する協力要請があった。

3. 今後の事業について

今年度は、新型コロナウイルスに翻弄されて、3つの町会でしか実施できなかった。次年度は、引き続き、新規にスマホ教室に参加を希望する町会を募集して、町会ごとに LINE グループを構築するとともに、各町会の住民に対して、大学生が発案した新たな交流活動への参加を呼びかけられる仕組みを構築する。

現在検討中の新たな交流活動は、

- ①ZOOM 体操:一人暮らしの高齢者の見守りも兼ねた「顔の見える」ラジオ体操を ZOOM で開催。
- ②ボランティアのマッチング:スマホの位置情報アプリ「ココイル」を活用したマッチングの実証実験。支援を求める高齢者が、アプリを通じて自分の居場所と要件を投稿し、若者がそれに応える仕組みづくりを行う。

である。詳細は次年度の申請書に記載する。

4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等

なぜ、ZOOM を活用した報告会ができないのでしょうか?「新型コロナウイルスが収まると思っていたから」では理由にならないと思います。災害を想定した準備をするよう心がけてください。来年度も、今年と同様に新型コロナウイルスの感染が収まらない場合の審査会と報告会の在り方についてお答えください。